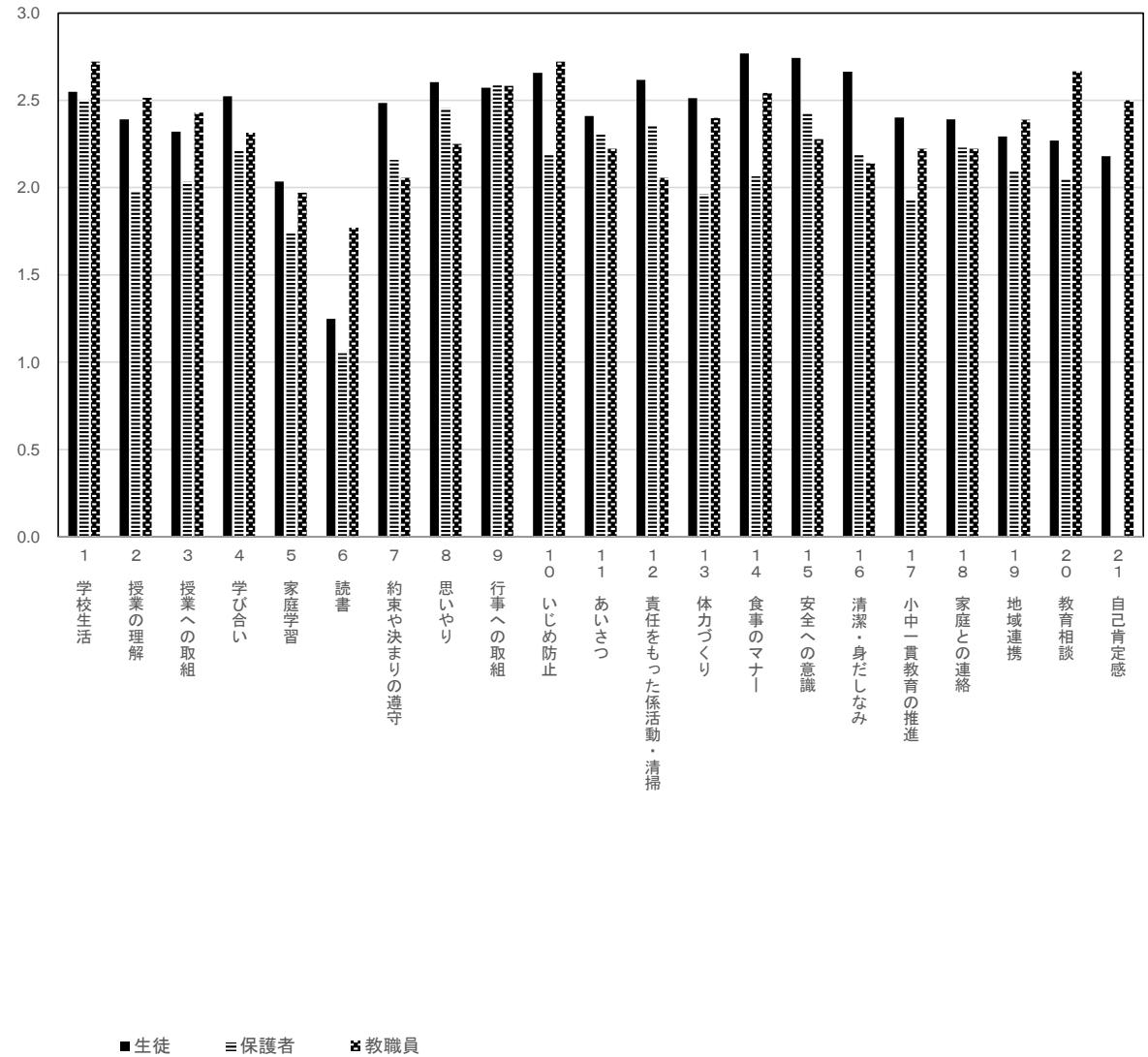


三者比較(生徒、保護者、教職員)

そう思う 3点 ややそう思う 2点 あまり思わない 1点 全く思わない 0点

質問内容	生徒	保護者	教職員
1 学校生活	2.5	2.5	2.7
2 授業の理解	2.4	2.0	2.5
3 授業への取組	2.3	2.0	2.4
4 学び合い	2.5	2.2	2.3
5 家庭学習	2.0	1.7	2.0
6 読書	1.2	1.1	1.8
7 約束や決まりの遵守	2.5	2.2	2.1
8 思いやり	2.6	2.5	2.3
9 行事への取組	2.6	2.6	2.6
10 いじめ防止	2.7	2.2	2.7
11 あいさつ	2.4	2.3	2.2
12 責任をもった係活動・清掃	2.6	2.4	2.1
13 体力づくり	2.5	2.0	2.4
14 食事のマナー	2.8	2.1	2.5
15 安全への意識	2.7	2.4	2.3
16 清潔・身だしなみ	2.7	2.2	2.1
17 小中一貫教育の推進	2.4	1.9	2.2
18 家庭との連絡	2.4	2.2	2.2
19 地域連携	2.3	2.1	2.4
20 教育相談	2.3	2.0	2.7
21 自己肯定感	2.2		2.5

令和5年度学校評価(三者比較)



令和5年度 学校評価に関する考察

今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に分類され、学校行事を含む学校教育が活動や参加人数などの制限なく実施できるようになった。また、地域の行事も少しずつ再開されるようになり、社会とのつながりをもてるようになった。

学校評価は、21項目について、「そう思う」「ややそう思う」「あまり思わない」「全く思わない」の4つの選択肢で行い、順に3、2、1、0ポイントとした。保護者に関しては「分からない」を加え、5つの選択肢に分類している。回答の平均が1.5ポイントで50%が肯定的評価をしていることになる。

I 創造性豊かな生徒（知）（項目2～6）に関して

◎評価の高い項目

生徒の評価の中で「4 友達と協力して学習し、自分の考えに生かしている。」という項目について2.5ポイントとなっている。生徒の自由記述の中にも、「クラス内で考えを交流したりすると自分の考えを深められると思うので来年もやってほしい。」「グループ活動が多くて、苦手な教科も楽しく授業を受けられた。」とあり、本校で実践している「学び合い」の学習の効果が現れていると考える。教職員については「2 私は、学力向上が図れるよう、分かる授業を実践している。」で2.5ポイント、「3 私は、授業に意欲的に取り組めるよう指導方法の工夫、改善に努めている。」で2.4ポイントであり、学力向上を目指して、日々の授業の改善に取り組んでいることが分かる。

○評価の低い項目

「6 読書」について、生徒、保護者、教職員ともに評価が低い。本校では、読書週間を実施したり、本の紹介をするなどして読書量の増加をねらっているが、肯定的評価は生徒が1.2ポイント、保護者が1.0ポイントと平均の1.5ポイントを下回った。また、「5 家庭学習」についても1、2年生は他の項目よりも低い評価となっており、学習に対して努力が不十分であると生徒も認識していることがうかがえる。しかし、パワーアップノートの提出率100%のクラスもあり、各担任の意識や声かけによるところも大きい。引き続き、学習計画の立て方や家庭学習の必要性を理解させ、学習習慣の確立を図っていきたい。

II 心豊かな生徒（徳）（項目1、7～12）に関して

◎評価の高い項目

「1 学校生活」「9 行事への取組」の項目は、生徒、保護者、教職員ともに肯定的評価が多く、2.5ポイントを上回っている。特に1の項目については、2.7ポイントとほとんどの教職員が「そう思う」と回答しており、学級経営だけでなく、保健衛生、給食等も含む教育環境すべてについて居心地のよい環境づくりに努めていることが分かる。また、今年度

は合唱コンクールをはじめ、輝石祭などの学校行事を保護者の方に見ていただくことができたため、生徒の活躍や頑張りを評価していただいたと思われる。「10 いじめ防止」の項目は、生徒が2.6ポイント、教職員が2.7ポイントである。「12 本校は、清掃が行き届き、学習しやすい環境である。」について、保護者は2.3ポイントと高い評価だが、一方で「アトリウムのハトの被害や体育館のコウモリの糞等があり衛生的ではない。」というような記述もあった。

○評価の低い項目

「心豊かな生徒」に関する項目では、すべて2.0ポイント以上なので評価の低い項目とはいえないが、保護者の「10 本校は、いじめのない集団づくりに努めている。」という項目が、生徒や教職員と比べると落ち込んでいる。いじめ防止の対策、取り組んでいる実践をもっと保護者にも発信していきたい。

III 社会に貢献できる生徒（体）（項目13～16）に関して

◎評価の高い項目

「15 安全への意識」について、生徒が2.7ポイント、保護者が2.4ポイント、教職員が2.3ポイントと高い評価である。地域の方から交通マナーについてお褒めの言葉をいただくことがあり、多くの生徒が安全を意識して行動できていることが分かる。保護者アンケートからも交通安全だけでなく、怪我や感染症、SNS等に対し、生徒自身で安全に気を付けて生活する意識が高まっていることを知ることができた。「14 食事のマナー」の項目は、生徒が2.7ポイント、教職員が2.5ポイントであった。新型コロナウイルス感染症が通常の感染症となった現在も、生徒はマナーを守り、配膳したり給食を食べたりしている。日々の食に関する指導や生徒の意識の高さがうかがえる。

○評価の低い項目

「13 体力づくり」では、3年生の保護者の評価が1.9ポイントであった。3年生徒は、2.6ポイントである。生徒は体育の授業等で運動をしているため、ポイントが高くなっていると考えられるが、部活動を引退した後であるため、運動部に所属していた生徒は目に見えて運動量が落ちていると思われる。

IV 地域との連携（項目17～20）に関して

◎評価の高い項目

生徒は、「17 他の学年や小学校などの他の学校との学習や活動は楽しい。」が2.4ポイント、「19 地域の方や外部の講師の方から学ぶことは楽しい。」が2.3ポイントであり、学校だけでなく地域の方と関わりながら学ぶことを楽しいと感じている。教職員も19については、2.4ポイントである。今年度、地域の神輿や祭りが行われ、本校では、生徒も教員も参加した。また、以前からグリムの館のイルミネーションの準備や片付けや新春書初め展の準備・片付けもボランティアとして参加している。地域の方の協力でふくべ細工にも挑戦でき

た。今後も連携していきたい。「20 教育相談」に関する項目では、教職員が 2.6 ポイントである。「10 いじめ防止」の項目でも 2.7 と評価が高く、教職員は、生徒や保護者からの連絡や相談に真摯に向き合い、対応していることが分かる。生徒の評価も 2.3 ポイントと高いが、「先生は、話をよく聞いてくれる。」という意見がある反面、「話しづらい。」と感じている生徒もいるため、今後も教育相談を年間計画に位置づけ、相談しやすい環境にしていく。

○評価の低い項目

評価は概ね 2.0 ポイントを越えているが、保護者の「17 小中一貫教育」に関する評価が 1.9 ポイントである。この項目では、保護者アンケートの中で「分からない」と回答した割合が 2 年生で 32%であり、最も低い 3 年生でも 14%であった。小中一貫教育が理解されておらず、認知度も低いことが考えられる。今後、活動をもっと保護者に知らせ、小学校と中学校が一体となって児童生徒の育成に取り組んでいることを理解していただけるよう努めたい。

V その他

「21 自己肯定感」に関する項目は、教職員が 2.5 ポイント、生徒は 2.2 ポイントである。「そう思う」を選んだ生徒の自由記述には「生徒が中心になって行事を行っている。」「今年度はコロナが緩和され、行動制限が減少したので、思い切って行事に臨むことができた。」というものがあり、行事などの活動に主体的に参加することで、自己肯定感もあがることが分かる。今後も生徒の主体性を育み、自己肯定感を向上させていきたい。